

第3期越生町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定に係るパブリックコメントの結果について

意見の募集期間: 令和8年1月30日～3月1日

意見の提出者: 2人

No	意見等	回答(町の考え方)
1	<p>移住定住促進に向けて(やってみるジャン) 東京都大規模災害避難民受け入れ協定締結へ 都では大規模災害被害想定では、発災時から2週間で299万人の被災難民を想定しております。特に関連死は数年にわたることが想定されます。此の事に鑑み予め避難民受け入れ協定を結び、受け入れ施設、空き家、空き地、食料自給体制整備、備蓄倉庫、防災井戸、鉄道整備費、特に越生線の複線化などを都防災、減債基金からの出捐、にて賄う。 避難先を知る交流会などを通じて、越生の良さを知っていただくことにより、都民の移住定住促進につながります。</p>	<p>国は、首都直下地震が発生した場合の埼玉県内における被害想定を、死者数は最大約3,200人、建物の「全壊・焼失」は、最大7万2000棟になると試算しています。そのため、東京都で大規模災害が発生した場合には、越生町においても相当の被害が及ぶものと想定されます。住民の生命、身体及び財産を災害から保護するための防災対策は、全ての市町村に課せられた責務であり、他の地方公共団体と連携し、避難者を受け入れる体制を整備することは、不可欠であると認識しているところでございます。 現在、町では、全国梅サミット協議会加盟市町の12団体や埼玉県内の全市町村、近隣市町で構成されているレインボー協議会加盟市町と災害時における相互応援協定を締結し、大規模災害が発生した場合は、お互いが協力して応急対策や復旧活動を円滑かつ迅速に遂行するための支援体制を構築しております。また、令和6年12月には、都市間交流事業を行っている、県東部の宮代町とも防災協定を締結し、お互いの防災訓練に参加し、物資調達訓練を実施するなどの交流も図っているところでございます。 ご提案の都内からの避難民受け入れ協定の締結につきましては、まずは現在協定を締結している自治体との連携強化を図っていくことによって防災対策の充実に努めてまいりたいと考えておりますので、ご理解賜りたいと存じます。</p>
2	<p>ボランティアによる町PRを 名称は越生diplomat(外交官)行政機関。 各有名有力企業職員への町定住移住促進PRの為、越生移住促進営業ボランティアを募集して、そのボランティアを越生町(外交官)diplomatとして委嘱し、名刺を作り持たせて、町としては交通費のみ実費弁償による制度を作れば、日本初でマスコミの注目も集め、営業の中で、桜、梅、等のバラ科被害のクビアカツヤカミキリへの警鐘を鳴らすことも世間の注目、耳目を集め、注意喚起にもつながるような、ボランティア募集はいかがでしょうか。</p>	<p>効果的な町のPRのためには、行政が主体となって情報を発信するだけでなく、町民や町に関心・愛着を持つ方が町の魅力を自ら発信しやすい環境を整えることが重要であると認識しております。 こうした考えのもと、シティプロモーションチームを中心に、SNSをはじめとするデジタルメディアを活用した情報発信に積極的に取り組むことで、多くの方が越生町の魅力に触れ、発信の担い手となれる機会づくりを進めているところです。さらに、都市部で開催されるイベントに参加し、特産品販売や観光PRを通じて越生町とのつながりを広げる取組も継続しております。こうした取組と連動して、越生町に関心を持った方が町での生活を体験できるよう、お試し住宅の活用に向けた整備も行っているところです。 また、ご提案のボランティア外交官による活動と形は異なるものの、地域おこし協力隊による町のPRも推進しており、現在も隊員が活動中です。卒業後に集落支援員として町内に活躍されている方もおり、地域への定着という観点からも成果が生まれているものと認識しております。 これらの既存施策を推進しつつ、ご提案の内容についても引き続き研究・検討してまいります。 クビアカツヤカミキリによる梅・桜への被害については、町として深刻な課題と認識しており、防除対策とあわせた積極的な情報発信が重要と考えております。防除対策の推進はもとより、いただいたご意見も踏まえ、より効果的な情報発信・町のPRに努めてまいります。</p>
3	<p>ハイキングの町、越生は「訪れる町」、であり定住の町では無いことにより、近隣市町への町民の転出超過になっているとみられます。ネックは買い物、道路、交通への不便さが住みにくくしています。提案です。「テレワークテラスへ」 環境と景色の良さは定評あるところを生かして、WeB・、ネット系有名企業ソフトバンク、楽天、メルカリなどの社員に特化した、越生町への移住促進。テレワークで疲れた目を窓の外に向ければ、緑の木々、散歩に出れば静謐な町並みと路地、健康に良いデフォルトモードへの切り替え、瞬時に、いつでもできる。こんな環境こそ、テレワーク企業にこそウリです。 健康意識も高いので、地産地消オーガニックもウリです。</p>	<p>ご意見のとおり、本町では平成14(2002)年以降、転出超過の傾向が続いており、特に若年層での流出が際立っている状況です。買い物の利便性や交通インフラへの不満が住みにくさの一因であることも認識しており、移住・定住の促進は本町にとって重要な課題と捉えています。 町では、観光や交流を通じて町の魅力に触れた方が、関係人口を経て移住・定住へとつながる好循環を生み出すことを移住促進の基本的な考え方としています。こうした考えのもと、移住希望者が生活環境を具体的に体験できるお試し住宅の整備・活用や、空き家バンク事業の推進に取り組んでいます。 こうした取組を進める一方で、東京23区等からの移住者への移住支援金制度やサテライトオフィス開設補助についても制度を設けておりますが、利用条件などの面で課題があることも認識しており、今後も検討が必要であると考えております。 豊かな自然環境や静謐な環境を活かしたテレワーク移住者への訴求、地産地消・オーガニックを組み合わせた移住促進というご提案は、本町の強みを捉えたご意見として受け止めております。貴重なご意見として、今後の施策検討の参考とさせていただきます。</p>

<p>越生町外から転入した者ですが、私鉄もJRもあり遠くない場所に大学病院が2か所もあって、安心できる生活環境です。越生町で育った方からすると田舎すぎると思うでしょうがとても住みやすい町です。県外へのアピールによって移住者が増えないでしょうか。</p> <p>4 夏休み、冬休みの学童の受け入れを無条件にし、また受入れ時間を早く、保育園は土曜午後も受入れ、仕事の休みに関係なく保育園利用OKとするなどしてくれると子育て家庭への印象は絶大です。保育園、学童の問題で越生町から出る知人は少なくありません。</p>	<p>ご提案のとおり、本町の魅力である豊かな自然環境や安心できる生活環境を町外へ積極的にアピールし、移住定住の促進に繋げていくことは、町としても大変重要な取り組みであると認識しております。引き続き、シティブロモーションの推進や移住・定住の促進を図ってまいります。</p> <p>学童保育室及び保育園の受け入れ条件の緩和や、受け入れ時間等の拡大についてですが、保護者の皆様が置かれる状況がますます多様になっていることは、町としても認識しております。本町では、保護者の皆様が子育ての負担や不安、孤立感を和らげ、自己肯定感を持ちながらお子さんと向き合えるよう支援することを基本的な考え方としており、保育園や学童保育室は、就労等により家庭での保育が難しい場合に安全・安心な環境でお子さんをお預かりする役割を担っています。受け入れ体制の拡大には、基準を満たす保育士や放課後児童支援員等の専門人材の確保が不可欠ですが、現在、全国的にも人材確保は非常に厳しい状況にあります。引き続き人材の確保に努め、現在の受け入れ体制の維持・充実を図ってまいります。</p> <p>今回いただきました内容は、今後の子育て施策における貴重なご意見として承ります。</p>
--	---